

## 第15期 葛飾区社会教育委員の会議（第5回）会議録

● 開催日時 令和7年10月31日（金） 午後2時～4時

● 会場 ウィメンズパル 洋室D

● 出席者

社会教育委員（8人）

大島 英樹	歌川 光一	竹内 理恵	藤野 尚子
増田 龍二	加藤 藍	伊藤 香織	千葉 貴志

事務局職員（4人）

生涯学習課長	土居 真喜
生涯学習課学び支援係長	佐藤 吉裕
生涯学習課担当係長	柳澤 雅弘
生涯学習課学び支援係	矢作 孝寛

オブザーバー（1人）

地域教育課地域家庭連携係長	島村 智志
---------------	-------

合計13人

次第

議事

1 協議テーマについて

- (1) 第3回・第4回の振り返り
- (2) 第6回以降の発表者の分担の検討

2 その他

### 【配付資料】

- ・かつしかのきょういく 第158号
- ・かつしか区民大学情報誌 まなびぶらす Vol.38
- ・かつしかの文化財 第117号

## 一開会一

○事務局 それではお時間になりましたので、第5回社会教育委員の会議を始めさせていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。伊藤委員が10分ほど遅れて参加されます。千葉委員が所用のため16時に退席されます。また、引き続き地域教育課地域家庭連携係の島村係長も出席しております。

次に傍聴についてですが、本日傍聴者はいらっしゃいません。

続いて会議録についてですが、確認期限は11月5日までとなっております。皆様にご確認いただいた後、区のホームページに公開させていただきます。

それでは、本日の資料について説明させていただきます。次第が1枚、参考資料としてかつしかのきょういく第158号、かつしか区民大学情報誌まなびぶらすVol.38、かつしかの文化財第117号をお配りしております。

それでは、この後の進行につきましては大島議長にお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

○議長 皆さんこんにちは。本日は第5回ということで、さっそく始めていきたいと思います。本日は第3回、第4回の振り返りを行います。第3回では、地域教育課の島村係長から、葛飾区のPTA支援についてご説明いただきました。第4回では、東京都立大学の荒井先生から、PTAの歴史と制度、理念をめぐる課題についてご講義をいただきました。こちらについて、皆さんお感じになられたことやもう少し聞きたいことも含めて、振り返りをしていければと思います。

そちらを踏まえて後半は、次回以降お話をいただく順番を決めていこうと考えております。皆さん振り返りという言葉は馴染んでいますか。私が会議をワークショップ形式で行うときは、終了後に振り返りシートを記入してもらっていました。そのときに、どういう狙いを持てば振り返りという言葉がすんなりいくか、このようにまとめてみました。

振り返りは、プロセスの再現と評価。振り返りシートを書くときに、感想や反省という言い方をすると、良くなかった部分に注目してしまいあまり楽しくない。改めてこういう言葉にすると、やったことをシンプルに思い出せる。その上で、良いことも良くないことも再現していくことで、いろいろなことが生まれてくる。それで出てくるものを確認するのが振り返りというふうに見てみると、シンプルに取り組みができるのではないかと思います。

それとセットになっている分かち合いも、話し合いをすると合意形成というところに結びついてしまい、1つの考えにまとめるという話になりがちですが、分かち合いを意見交換と同じと考えると、意見は人それぞれでストップしてもいい。これは大事なことで、自他の違いを知るというところで一旦とどめてみる。その上で、合意を作るところは合意を作ると考えると、この2つのプロセスはやりやすくなるのではないかと思います。こうすると、本日やりたいことがご納得いただけるのではないかと思います。他の表現も思いついたら、皆さんからいろいろ教えていただけたらと思います。

こういうことを踏まえて、3回目、4回目の振り返りをしていきたいと思います。皆さんの記憶に残っていることや、もう1回聞いてみたいことなど、自由にお話をいただけたらと思います。あるいは、島村係長から3回目で話しきれなかったことがあればお願いします。

○地域家庭連携係長 3回目では、地域教育課でのPTA支援やアンケートの結果をお話しさせていただきました。その中で皆さん気になるところがあれば、お答えします。

○議長 何か質問があればお願ひします。

○竹内委員 PTAのことを業者に丸投げしている学校は、区内にはないことが分かりました。他の自治体では業者に頼っている学校があるというのを聞いたことがあります。葛飾区は人数が少なくなっているかもしれません、まだPTAがある学校がほとんどだと思います。

○加藤委員 区内のどこかの小学校か中学校で、PTAの会費を使って、運動会か何かの警備を業者にお願いしたという話は聞いたことがあります。自分がPTA会長をやっている常盤中学校でも、本部の役員が少ないので文化祭の警備を依頼しようと見積もりを取りました。5～6万円くらいかかるということで、今回は見送りました。ただ、人が少ないので今後は依頼するかもしれません。

○議長 誰かに頼んだらそれぐらいかかるものを、皆さん之力でやられている。

○加藤委員 業者へ依頼することを検討している学校は、他にもあると思います。

○竹内委員 PTAの会費では賄えないから、依頼していないということですね。

○加藤委員 やはり皆さんから集めたお金で依頼するのは、少しハードルが高いです。

○議長 たくさんお金があれば、依頼しようという話になるわけですから。

○竹内委員 役員ではない保護者の方にも知ってほしいです。

○加藤委員 そうですね。保護者が集まらないと、会費を使って業者にお願いするしかないということは、周知をしたほうがいいかも知れません。

○千葉委員 中学校の文化祭では、PTAの方に受付や警備をしていただく学校もあります。なぜPTAの方にご協力いただいているかというところも、保護者全員に伝わるとまた違うのかなと思います。例えば体育館に教員も生徒もすべているときに、展示のところに誰もいないと、誰かが作品に触れて壊してしまったり、なくなってしまったりすると、大きな問題となります。PTAの方も交代でご自分の学年のときに体育館にいていただくなどの工夫もしていただいています。

改めて学校としては、このようにしてPTAにご協力いただけることによって、教員も生徒に寄り添うことができ、生徒たちが頑張っている姿を教員がしっかりと把握し、適時に生徒への言葉かけをすることは教育効果が高いと思います。PTAの方にお手伝いいただくことにより、生徒への教育の充実に還元していくことを保護者の皆様にご理解いただけたとPTA活動の必要性を感じていただけると思います。

○竹内委員 双葉中の場合は、夜間の生徒が駐輪場の整備などをしてくれたり、PTAのOBの方が受付をしてくれたりします。

○議長 双葉中は昼と夜の交流も盛んなのですか。

○竹内委員 交流したいのですが、なかなか難しいです。

○千葉委員 私が双葉中に勤務した頃は、昼間の文化祭の展示を夜間学級の生徒が夜に見学したり、あとは弁論大会において、夜間の代表の生徒が昼間の時間に来て、そこで自分の考えていることや未来について発表しました。昼間の生徒にとって新たな発見があり、貴重な学習の経験の時間でした。

○竹内委員 保護者と夜間の生徒の交流では、昔は中国の方が多かったので、餃子づくりとかを教えてもらい、すごく楽しかったです。

○議長 私も学生と一緒に夜間の学校公開を見学させていただいたことがあります、昼夜別の時間帯で、高校が定時制も通信制もあって、なかなか交流は難しいと思っていました。

○増田委員 前々回ブロック別研修会のことで、参考事例を教えてほしいと要望しましたが、その後の小P連の理事会の資料に盛り込まれていました。ありがとうございました。

○地域家庭連携係長 あくまで参考ではありますが、ブロック別研修会をやっていただければと思います。よろしくお願ひします。

○事務局 P T A連合会のブロック別研修会や全体の研修会は、制度化されたものとして、内容を検討する会議があり、内容が決まっていくというプロセスがありました。

地域教育課と生涯学習課に分かれてからは、生涯学習課では、区内のいろいろな団体を支援するために、学習会の講師費用を援助する制度があり、以前P T A活動が盛んだった時期は、P T Aとして何かを学んだり、活動したりするときに、研修部が申し込んでくることが結構ありました。今は役員のスリム化が図られて、研修部が成り立たなくなっている中で、ブロック別研修会とか大きな研修会ではなく、各学校のP T Aが何かを学ぶときに支援する制度を使う数が少なくなっています。

それはP T Aの活動が小さくなる中で、活動できなくなっていることを表していて、もしかすると先ほどの会費の負担の件を、P T Aの会員の皆さんにお伝えすることと併せて、そういう研修を各学校のP T Aがやると役員でない会員の方が来るので、P T A活動を知ったり、つながりができたりということはあったと思います。P T Aを理解するきっかけになったり、活動していることに気づかされたりが過去にはあったはずですが、どんどんなってきているので、そういう意味では役員以外のP T A会員は、P T Aの役員が何をやっているか分からぬし、先ほどの話で言うと、学校行事にP T Aがどのように関わっているのか分からないということだと思います。

だからそれは、P T Aは大事だと言われても、本部の人たちは実感があっても、他の人々は実感がないから、大変だからやめたらいいとなったり、お金を出してやればいいという話になったりということが、もしかしたらあるのかもしれません。その辺、増田委員と加藤委員の実感としてどうでしょうか。

○増田委員 本部役員をやっている方は、P T Aが生活の中に馴染んでいますが、役員ではない方は、自分の担当期間ではないときは、P T Aは遠くの存在になっていると思います。意識の外にある組織になっていると思うので、恐らく興味がわかない。本部役員ではない方は、それぞれ担当のP T A役員をやっても全体を理解することはないので、自分の仕事はやったけど、組織の必要性や、どう子どものためになっているのかとか、あとは地域にも学校にも、これはどのような役割になっているかという実感はないのだと思います。

○事務局 その辺がP T Aの今後についてのキーポイントだと思います。

○竹内委員 スリム化するために広報誌を出さない学校や年1回くらいしか出さない学校も増えています。なので、どんなことをやっているか見えなくなっています。

○加藤委員 今まで1人1役で、必ず何かしなければならないというのがありました  
が、そういうのをやめたりしました。スリム化した結果、一般の保護者がPTAは何をや  
っているのか分からぬ。だから、学校の運営に興味をなくしてしまった状態で、手伝う  
こともしないし、PTAの便りとか配信を見なくなってしまう。どうしてもPTAは悪い  
イメージが先行しがちですが、昔ほど閉鎖的な団体ではないし、無理やりやらされること  
もないので、そういうところをどうやって一般の保護者に知つてもらうかが課題です。知  
ってくれれば、学校の運営の手伝いをしてくれる人もたくさんいると思います。

前回荒井先生がおっしゃっていた、学校の経営は校長先生と副校长先生がやられて、学  
校の運営は保護者と先生がやっていくという言葉が心に残っています。学校の運営は保護  
者がやるという意識をみんなが持つてくれたらもっと良くなるのではないかと思いました。

○藤野委員 私の地域でもスリム化していく、PTAの会長と副会長ぐらいしかいないと  
ころがありますが、警備の依頼をすると割と保護者が来ます。子どものためなら協力して  
くれる保護者が多いみたいで、何部、本部とか固めないで、会長と副会長ぐらいで、あと  
はもう行事ごとに依頼すると集まるという話は聞きました。

○加藤委員 学校ごとに温度差があります。例えば、常盤中は集まりませんが、隣の新宿  
中はしっかり集まるみたいです。

○竹内委員 会長が良いから集まるのか、歴代集まっているからそれが伝統になって集ま  
るのか、どちらでしょうか。

○加藤委員 緩いと逆に落ち着いてしまうパターンもありますし、かっちりしていると  
ころの方が、地域とか学校の行事に積極的に出ていくようなところもあります。緩いことが  
必ずしもいいわけではあります。

○藤野委員 今までそれでもよかったですかも知れませんが、コロナで1回完全に止まっ  
てしまい、引継ぎができないことが一番大きいと遠目で見て感じました。今のは誰に聞  
いていいか分からぬ。前の人聞いてもわからぬのかわいそうな面があります。

○伊藤委員 役員の方は、コロナで中断している部分の引き継ぎができないこと  
と、コロナで一旦止まったものを再び作り上げることは、なかなか難しいというのはある  
かもしれません。でも、先ほどあった子どもたちの頑張りとか、そういうところに支援で  
きるところは、喜んで都度ボランティアとかで参加してくださる方もいるし、1人1役で  
いまだにやっていますが、内容が分かりやすいところとか積極的に参加してくれるのはあ  
りがたいです。

ただ、小学校はそれぞれ地域ごとの特色でやるので、中学校に上がったときにいろいろ  
な小学校から來るので、その辺はどうなのでしょうか。

○加藤委員 常盤中学校は、3校ぐらいの小学校から來ます。やはりPTAの色が各校違  
うので、ある年は例えば北野小学校のPTA色が強かったり、次の年は末広小学校の色が  
強かったりします。

○生涯学習課長 今の話を聞くと、小学校でPTAをやられている方は中学校でもやられ  
るのでですか。

○加藤委員 そういう方が多いです。まれに中学校からやってくださる方もいますが、ほ  
とんどは経験者です。

○竹内委員 6年生の保護者が自分の中学校に入ってくることが分かると、秋ぐらいからPTAに入ってもらえるように声をかけます。

○加藤委員 小学校つながりで本部の人間が集まると、PTAの色も変わってくるので、体制の厚い年があったりします。

○議長 お話を伺っていると、とても繊細なものだと思います。こういう仕組みがあるからこうなるでは全然動かなくて、各小学校から持って来た文化をどうすればいいのか。

○加藤委員 必ずしもぶつかるわけではなくて、みんな協調していきます。

○議長 それでも、どこの小学校出身かというのが残るから、そこで味わったことが大事なので、そういうことまで踏まえて、地域教育課で個に応じた支援はなかなか難しいと思うので、全体の話をされるというところですね。

○加藤委員 一般の保護者に、PTA活動だとハードルが上がってしまうので、学校運営にどうやって関わるかをどうやって伝えたらいいのか。PTA活動だと難色を示される場合があるので、学校運営とか言葉にも気をつけながら、どうやって伝えていくか。

○地域家庭連携係長 地域の方も含めた皆さんが学校に関わっていくことで、みんなで支えていくのが一番良いというのは、皆さんお分かりだと思いますが、その中で、仕事や家の関係で関わるのが難しい方もいらっしゃると思います。

広報誌が段々なくなっているという話もありますが、これから始まるコミュニティ・スクールでは、地域にその情報を提供すると規則に書いてあるので、もう少し皆さんが学校でやっていることを知る機会が増え、つながっていくことで、良くなっていくのではないかと考えています。

○副議長 今の話を聞いて思ったのは、藤野委員がおっしゃっていた会長と副会長ぐらいの方が人を集めやすいとか、伊藤委員がおっしゃっていた都度ボランティアのように目的が分かりやすいと集まるということで、呼びかけ方とかスマイルステップの作業だと割と協力的だということでしょうか。PTA活動と言ってしまうと重たくなってしまう。

○藤野委員 本部に入ってくれとか、何とか部に所属してくれと言うよりは、そういうものは全部なくして、こういうことがあるからお願いしますと言った方が集まるという話は聞きました。自分の子どものためなら動くという感覚があるのかなと。

○副議長 そこが面白いと思います。組織の役員になるといった感覚が合わなくなってきて、ただ手伝いたいと思う気持ちは保護者の中にあるので、呼びかけの表現とかによって変わるのであれば、結構ポイントなのかもしれません。

○伊藤委員 確かに組織に所属するというのは、今の時代は抵抗があるのかもしれません、都度ボランティアでも働いている方が多いので、運動会とか自分たちも休めて参加できるものだったらというのは、大きいのかなということがあります。

あとは、仕事内容を知っているという意味では、上にお子さんがいれば入りやすいとか、初めての方だと、不安だから参加して馴染んでいくという方もいらっしゃいますが、なかなか足を踏み入れにくい方もいたりとか、それこそ小学校だと、幼稚園、保育園の頃から声がかかる方とかもいたりとか、それをずっとやられているのだろうと思います。

○副議長 先ほど小学校から中学校への話がありましたが、幼稚園から小学校へのPTAの文化の違いはあるのでしょうか。

○伊藤委員 出身の幼稚園、保育園で違いますし、幼稚園と保育園でも全然違いますし、平日いらっしゃる方と働いている方でも、だいぶ違うのかなというのはあります。私の学校のPTAの方は、それぞれ働きたい形態によって、日中動ける人は日中動ける仕事をしてくれて、土日動ける人は土日に仕事をしてくれて、うまく中でやってくださっているのはすごくありがたいので、そういうのがうまく機能すれば、とてもいいのだと思います。

別の話ですが、青少年委員や地域の方、地域教育協議会とかいろいろある中で、そういうところとの関わりは、意外と一般の保護者にあまり知られていないとすごく感じているところで、これからコミュニティ・スクールをやっていく上では、教員や子どもたちもそうですが、なかなか知らない部分もあるというか、こちらも周知の努力をしないといけないところではあります。

○藤野委員 その辺が私たち団体の頭の痛いところで、学校の行事は保護者の方に手伝っていただけたのですが、地域の行事をやっていると、コロナで1回完全に止まっているので、それは何ですかとなってしまって、私が学校に行って説明をするわけにはいかなくて、PTAの方にお願いするしかないのですが、PTAの方もよく分からぬ。そこで参加をお願いするのが難しいというのが、地域行事の際に出ている気がします。

○議長 学校に行けないというの。

○藤野委員 私が保護者会に行って保護者に説明するわけにはいかないので、校長先生やPTA会長に会いに行って説明はしていますが、保護者の方には伝わっていないです。

○事務局 青少年育成地区委員会はすごい組織で、PTAも教員も青少年委員も民生委員・児童委員も町会も入っています。それだけ地域で一番大きな組織なわけです。その人たちが地域のイベントをやるときに、PTAは構成メンバーにはなっていますが、直接保護者に話す機会はありません。

○議長 それはすごく大事な話ですね。

○藤野委員 コロナ前までは、毎年引き継いでくれていたので何とかなっていましたが、コロナで2、3年止まってしまいました。私もコロナ後の会長なので、なかなかそこの穴埋めが難しいところがあります。

○議長 そうすると、継続というのは難しい部分。先ほどからの話でいけば、どう見せるかが本当に勝負になります。

○藤野委員 絶対に行けば楽しいですというのも伝わりません。保護者も子どもも分からぬ。過去の写真とかを見せて説明するしかないのですが、なかなか伝わらなくて、人数集めとか、ご理解してもらうのに苦労している状況です。

○加藤委員 学校の行事はすべての子どもが携わるので、保護者は協力してくれるのですが、地域の青少年育成地区委員会では、子どもが集まらないパターンもあるので、そうすると保護者の手伝いとかが少なくなってしまう。

○藤野委員 PTAの役員をやっている子どもを連れて来たりします。

○加藤委員 講演会とかの行事では人が入ってないといけないので、興味がない人も集めて入ってもらう。

○藤野委員 人数集めだけに最終的になってしまふのが、本当に申し訳ないです。

○加藤委員 本当に興味がある方にはぜひ聞いてほしいのですが、興味がない人に聞きに行つてもらうのは、なかなか心苦しいところがあります。学校の行事と地域の行事の温度差がすごく大きいと思います。

○事務局 うまく回っているときはスムーズで、何かそれぞれの役割があるわけではなくても、関わるのが当たり前ということで関わっていたからよかったのですが、コロナで一旦止まると、それぞれの組織や団体がこれからどう動くかをそれぞれ考へるので、総体にたどり着くまでに時間がかかり、PTAのようにみんな集まらなくてもいいという話になると、みんな集まっていたときに声をかけてスムーズに役割分担ができたり、動員ができたりしていたものができなくなっている状況が生まれています。

何が原因かというと、恐らくそういう距離感が生まれてしまったからでしょうが、それを説明するのも今までこうやっていたと言つても通用しなくて難しいです。

○竹内委員 私も地区委員会の研修部長をやっていますが、講演会とかを地区委員会で組んで、個々の学校が、お花茶屋地区委員会には入っています。1つの学校から10人ずつ動員をかけて、50人に役員を加えて80人くらいの想定で講師を呼びます。

ただ、各学校2人とかしか来てくれないと半分も席が埋まりません。そういうことがあると、講師も呼べないとなってしまい辛いです。

○藤野委員 どう頑張ればいいのかこちらも分からぬ状態です。

○議長 すぐに答えが出るわけではないですが、きっかけを見つけるとしたら、1つはコミュニティ・スクールをきっかけにできるのかという話にもなるのかと。そのときに、学校も地域も要望の前に、もっとアイディアを豊かにできるとかそういうのを区にも返せたらすごく意味ができるのかなと思います。せっかく始まるのであれば、願わしい形をいろいろ出せればいいと思います。

○地域家庭連携係長 学校で回答するときに、地域の方のご意見、PTAの方のご意見をどんどん出していただいて、それを含めて学校で例えばそれをどう生かしてどのようにやっていくかという話がまず出れば、ここから地域であれば、こういうことも手伝えるし、逆にこういうこともやってくれればこういうこともできるといった話が広がっていけば、そこをきっかけに、少し時間が空いたところを埋められるきっかけになるのではと期待しているところです。

○千葉委員 コミュニティ・スクールにおいて実施される学校運営協議会により、その内容は保護者の方にも地域の方にもオープンになるので、これまで以上に情報が広まりやすくなります。既にコミュニティ・スクールを先進的に大部分の学校で実施している自治体におけるPTAとの関わりの良い事例が分かると、これから立ち上げていく上で参考になると思います。

○地域家庭連携係長 三鷹市ではコミュニティ・スクールが広まっているので、三鷹市でやっている方を講師として呼んで、我々も勉強しているところです。今度、三鷹市に見学に行く予定になっているので、いろいろと事例を引っ張ってきて、新しくコミュニティ・スクールをやる方に、情報提供していくと思っています。

○千葉委員 特にコミュニティ・スクールを導入して、そこから数年経った中で、PTAとの連携やPTA活動が活性化してきたなどの事例があるとそこから学び真似していくこともいいと思います。

○地域家庭連携係長 あとは最初の段階で、いきなり良くなるものではないと思うので、そういうときにどういう形で広げたのかといった情報ももらいたいと考えています。皆さん慣れるまでに時間もかかるし、意見が出るようになるまでにある程度時間が必要だと思いますので、そういうときにこういうことをやつたら広がったということを聞けたらいいと思っています。

○竹内委員 来年度は新小岩ですか。

○地域家庭連携係長 新小岩中学校と松上小学校です。同じ敷地にあるので、まずはその2校から始めていくことになりました。先生方もやつたことがないので、12月に講師を呼んで、会議のやり方についての研修を行う予定です。それを土台として、来年度に少しずつ動いていただくことを考えています。

最終的には、翌年の学校の基本方針を決めるために、会議の中で校長先生の考えに対して、地域の方のご意見とかを入れた上で、承認を出す形になります。承認を出すためには、いろいろとテーマを出し合って作っていかなければならないと思うので、地域であればこういうふうに出したら学校はその考えをうまく組み込めるような、そういうものを出すための研修で、やつしたことない方でも分かる研修を予定しています。

○議長 その辺の話は、4回目の荒井先生の話とも重なってくるので、3回目、4回目と区別なく進んでいきたいと思います。私も以前、三鷹市の校長先生からお話を伺ったことがあります。それと、私の職場がある品川区もコミュニティ・スクールをやっているので、品川区の方にもお話を聞けるように頼むことができそうです。

○地域家庭連携係長 我々としては、いろいろな事例を聞けたほうがいいと思っておりますので、お話をいただけるのであればお願ひします。

○議長 教育委員会の中に、学校出身の地域教育コーディネーターの方と一緒に、その地域からのコーディネーターの方も入っていて、元校長先生と元PTAの方といった形で、同じ役割の名前を名乗って展開されてたりするので、そういうのも聞けるのではないかと思います。

○地域家庭連携係長 例えば、以前学校で働いていた方というのが今度地域コーディネーターみたいになっていくと、それこそ学校と地域を結ぶきっかけになるので、我々のイメージでも将来的にそういう方が入ればより良いと思いますが、どのように見つけてつなげていくのかが、課題になると思います。

○千葉委員 コミュニティ・スクールがどのくらいのペースで葛飾区全校に導入されるか分かりませんが、葛飾区でもスタートして将来的に拡充していくにあたり、コミュニティ・スクールの良さというところを注目したほうがよいと思います。必ず学校があって、子どもの成長のために、保護者があって地域があって、そこで学校・保護者・地域が連携していくことがより良い教育につながるということを、保護者の方に発信することは、導入前にもできると思います。これにより保護者の方が学校にどう協力いただくと有効かという部分を整理していく1つのきっかけになるとありがたいです。

○地域家庭連携係長 そういう事例も含めて、PTA連合会の方にも情報を渡しきれりば、そこからまた広がるきっかけになると思いますので、できればいろいろな会議を見学して、その情報をできるだけ早い段階で皆様にお伝えできればと思います。

また、将来的には全校に導入されると思いますが、小学校・中学校合わせて72校あるので、どのぐらいの間隔で導入するかは決まっていません。

○議長 加藤委員が荒井先生の経営と運営という言葉にしつくりこられたとのことで、その言葉が役員ではない方に届いたらいいと思います。

○加藤委員 いろいろな人が学校のこと興味を持ってもらえばいいと思います。

○議長 運営だと少し固いですかね。手伝うだと少し違うのかなと思います。運営は主体的な面があるので。

○加藤委員 まずは手伝ってもらうことで、裾野を広げてそこから運営してもらうイメージを考えています。例えば、運動会だと運動会の作法を分かっている保護者がいないと、手伝う人がいても先生が指示をするわけではないので、分からなくなってしまう。運動会の作法を知っているのは、PTA本部の役員ではありますが、それ以外にも保護者でそういうことができる人が集まるのが良いと思います。

ただ、現役の保護者が手伝わない中で、OBの方にお願いするのは言いづらいところがあります。OBの方に聞くと、手伝うので声をかけてとは言ってくれて、非常にありがたいところではあります。

○議長 私はPでもTでもなく地域の人間ですから、そういう人間も一緒に関わるとしたら、そういう人も巻き込んでもらえると嬉しいです。PTAという言葉からは外れてしまうかもしれません、コミュニティというようなところで、ここで暮らしていますと堂々と言えます。

○加藤委員 自治会や青少年地区委員会など、地域の方を巻き込むのも難しいところがあります。

○議長 地域の委員会活動にもつながっていない区民の方もいます。

○竹内委員 そういう区民がPTAを手伝いたいと来たときに、その人が善意で言っているのか、下心があって言っているのか、判別するのが難しい。身元がしっかりしてないと怖いです。

○伊藤委員 学校からお願いするときも、人つながりでお願いするので、いきなり新しい方が来ても、ありがとうございますと言いつらいところがあります。

○生涯学習課長 恐らく自治会長とかになると対応は変わってくると思います。

○事務局 どこにも所属していないとどんな人か分からないので、どこに所属しているのか気にする人も多いと思います。

○生涯学習課長 例えば、神社の氏子総代や檀家総代とか、そういう立場の人でも対応はそれ相応のものが出てきたりすると思います。地域に住んでいる以上、何かしらに属さないと、いきなり学校に行ってお手伝いしたいと言っても難しいと思います。

○事務局 学校以外の例えば地区委員会や町会の行事には、素性が明らかでない人も参加して、ボランティアをやったりしているわけです。そういうことで拾われてきた人は結構いるはずです。そこで実績を積んで、町会の手伝いをしてくれた人だから大丈夫と言えば、それなりに担保されるということがあったと思います。

でも今は、それぞれの行事やイベントがつながっていないので、それが独自にやっているような認識になっているという感じはしています。個人的には地区委員会がそこをすべて拾い上げてきたと思います。構成メンバーなのでそこに情報があって、そこからい

いろいろなところにつながっていくことができましたが、地区委員会の活動がストップしてしまって、学校を含めそれぞれでやっていたところが止まった中で、地区委員会はやろうとしてもつながりが切れているので、なかなか手が上がらないし人が集まらない、どうしたらいいのかという話になっているのかと思います。

○生涯学習課長 議長が話されたように、オープンに見えてもそうではない。

○議長 排除されている感じを持たなくないといと、一生懸命考えていました。だから、頑張っている方は排除しようと思っているわけではなく、外側から見ると頑張っている姿は、入口の鍵が開かないみたいなところがあると思います。先ほどおっしゃっていましたが、人が人を保証するという形でつないでいくときに、だめを出すためのものではなくて、そうやって中に入っている人の人が人を保証するという形で、地域の中に自分も入っていくことができると本人も嬉しいですし、力になれることができていく。

○生涯学習課長 子どもがいたら全員 P T Aに入れるようになるから、P T Aは間口が広いのだと思います。自治町会は住んでいて会費を払えば入れますが、意識して入っているわけではない。だから現状こうなっているのかと思います。

○議長 私が住んでいるところは1000戸ぐらいありますが、郵便受けに会員のシールを貼っているお宅はあまり見かけなくて、2割いかないくらいだと思います。昔は盆踊りとともにぎやかでしたが、こないだはお祭りではなく、小さいので小祭りをやりました。会長がすごくて、今までのような形ではできなくても、やれることはやるという方です。

私もすぐに行けるわけではないので、べったり協力するとは言えませんが、でもその姿勢はすごいと思って見ていて、やれるところの希望、きちんとやってそれに協力する方がいるという姿から、学べることがありそうだと思いました。それで楽しそうだったら、自分も関わる機会をつくれるなら、というふうに広がっていくのだろうと思います。

ぜひ何か関わりたい方の入口をどういうふうに用意するのか、要求するのかどちらもある方がいいと思います。

○藤野委員 地区委員会だと、いきなり来た人にやってもらうのは難しいと思います。地区によって人数の差はありますが、80人ぐらいで、その中でやるということで、誰でも受け入れるというわけにはいかないかと思います。

○竹内委員 やはり選出母体を見ます。

○藤野委員 そこがないとなかなか難しいと思います。誰かのご紹介はまた別の話ですが、入ってもらうのはハードルが高いです。

○議長 すごく大事な部分で、私もこの空間では立ち位置がありますが、区内の道を歩いていたら何にもつながりえない人間なので、ただの住民として近づけたら、1つの案になるかなと思います。

でも、そういう思いのところだったら、前回の荒井先生もおっしゃられたP T Aのそもそもの狙いとするところという、子どもが育っていくという部分は、何らかの力になれるとか、なりたいという思いをぶつけられるのではないかと思います。

○増田委員 先ほどの手伝いに行きやすいという話につながりますが、小学校のイベントとかをやるのに、お手伝いを保護者に呼びかけますが、学校によって差はあると思いますが、なかなか集まらないというのがあります。本田小学校は本田中学校から、何かお手伝いしたいという中学生のお話や、町会や地区委員会にお願いしようという話も出たりしま

したが、なかなか声をかけにくいという実情があつて、結局 P T A 役員と集まつた保護者と地域のボランティアの方で回しました。

町会、地区委員会、青少年委員などつながりがある中でもお願ひしづらいのはあります。それは、町会の高齢化やメンバー把握や保険関係だつたりします。中学生も卒業生だつたりしますが、友達を連れて来ると大丈夫なのかとか、そういうところまで含めると、安全面や管理体制を考えると難しいという部分もあつたりします。オープンにしたい気持ちと守りたい気持ちのバランスをどうするのかといった現状があります。

○副議長 どこも規律正しくなくてはいけないというか、迷惑をかけることにも厳しい社会になっていて、コンプライアンスに引っかかりそうな人を排除していく雰囲気が強くなっている。そういうことは、結構起きやすいのかなと思います。卒業生もまだ子どもだからとなってしまう。

○竹内委員 逆に、町会とかから中学生にボランティアを依頼する事例はあります。おみこしを担ぐ人が少ないので、中学生に手伝いを依頼するというのがありました。

○藤野委員 高齢化しているので、餅つき大会が大変だということで、地元の中学生に頼んで、中学生は餅を食べて帰ったというのがありました。ある町会から、地区委員会でお手伝いできませんかと言われましたが、1つの町会でやると他の町会もやらないといけないので、それは難しいと断って、地元の中学生に話したらボランティアできますとなつたので、中学校にお願いしました。町会では学校にお願いすることが増えています。

○生涯学習課長 コロナで一旦止めたイベントを再開したところ、人手がいないから中学校に依頼しているということですかね。

○藤野委員 手伝う人はなかなか集まらないのが町会の現状です。

○議長 そうすると一緒にやりたい、やろうという思いと、どういうふうにここから先の問い合わせ立てたらいいのかと思います。すぐにまとめなくても、次回から皆さん今までやつてきた中で、ぜひ言いたいこと、解決できていないことを語っていただくことをしていかればと思います。それには順番が大事な気がしますが、ずっと地域からの思いを話していたので、学校のお話から伺つた方が他のお話もしやすくなると思いますがいかがでしょうか。

○伊藤委員 11月28日は社会科見学があるので参加できません。

○事務局 議長がお考えの語つていただく中身についてですが、それぞれのお立場から P T A と私みたいなことですか。 P T A に期待することや課題などを語つていただく感じでしようか。

○議長 いきなりそういう一般的な話をするよりも、ご自身がやられてきたことを話した方がいいのではないかと思います。会長としてであつたり、学校の先生であつたり。 P T A とはといった話になるよりも、ご自身のやつてきたことを具体的に聞きたいと思います。その方が、どこがうまくいっていないとか聞けるかと思います。

○事務局 皆さんどうでしょうか。イメージはわいていますでしょうか。

○議長 ご自身の中に詰まつているものは、語つてもらわないことには何も見えないので、こんなことが起きたというのをお話いただく方が、より新鮮に具体的な理解ができるかと思います。

○竹内委員 コロナもあり、昔やっていたことが今はできないのではないかと思われるこ  
とも話していいのでしょうか。

○議長 そうですね。そういう意味でも長いご関係があれば、以前と今との違いを教えてい  
ただけたればより良いと思います。

○竹内委員 今のPTAでやっていることを先にお話しいただいた方がいいと思います。

○加藤委員 それでは小学校、中学校でいきましょうか。

○副議長 今日の話を伺うと学校ごとにだいぶ違いそうで、ご自身が生活の中にどうやつ  
てPTA活動を入れているかもお伺いしたい。あるべき論よりもこうですというのを伺  
たい。

○事務局 直接PTAに関わって、生活全般の中でのPTAの位置付けだとか、仕事や地  
域との兼ね合いとともに面白いと思います。

○副議長 この会議にもどうやって参加されているのかもお聞きしたい。

○加藤委員 そうですね。分かりました。

○議長 次の1月はどなたにしましょうか。

○千葉委員 1月は校長会と重なっていて参加できないので、3月でお願いします。

○議長 それでは千葉委員は3月でお願いします。

○伊藤委員 私はどちらでも大丈夫です。

○議長 それでは伊藤委員も3月でお願いします。ありがとうございます。皆さんのご協  
力で順番がすんなりと決まりました。先ほど副議長から、ご自身の生活の中でのPTAの  
位置付けというご要望がありましたが、逆に、他の方のこういうところを聞きたいとかあ  
りますか。

○増田委員 それぞれの立場で、PTAはこうあってほしいとかがあるのか気になってい  
ます。PTAはこういう活動をしようとか、目標みたいなものは、会則に載っているので  
すが、町会のお手伝いをする中でどのように感じられるのか。よく手伝ってくれるとか、  
最近付き合いが悪いとかいろいろ感じるところがあるので、そういうことを聞きたいです。

○議長 要望というか、こうあってほしいと願うことですかね。

○増田委員 そうですね。

○議長 ありがとうございます。いろいろとお話をいただけすると嬉しいです。

○副議長 荒井先生のご講義を踏まえると、昔は学校の先生が、専門ではない学びを深め  
る場としてPTAがあったという言い方をされていました。ここにいらっしゃる先生方は  
管理職の方なので、PTAのことをよくご存じかと思いますが、若手の先生や他の先生方  
に、PTAの会員であるという意識をどうやって芽生えさせるのか、既に芽生えているの  
かもしれないですが、教員の中でのPTAの扱いや校務分掌とPTAの関係をお伺いした  
い。

○伊藤委員 PTAの役員の方と一緒に、副会長、会計、監査などの役職でそれぞれ教員  
を年度ごとに割り当てていますが、先生が忙しいということで、保護者の方が中心となっ  
てやっています。広報委員に割り当てられている先生は、広報紙のチェックを一緒にする  
とか、それぞれの役割のことを行っています。

○副議長 最近、働き方改革が進んでいますが、先生方もそういう調整でご苦労されているのかとか、あまりやらせ過ぎてもいけないという学校の中のPTA問題みたいなものがあるのかとか、そういうことがあればお聞きしたい。

○加藤委員 先生のPTA会費は、強制的に集められているのか気になっています。

○伊藤委員 強制はしていませんが、断る先生はいません。

○生涯学習課長 自分の財布から出しているのですか。

○千葉委員 そうです。引き落としです。

○増田委員 妻にPTA会費はどう払っているか聞いたら、よく分からない、払った記憶はないと言わされました。

○伊藤委員 給食費と一緒に引き落としている可能性が高いです。

○千葉委員 第1回目に給食費とPTA会費と一緒に引き落としている学校も多いと思います。

○事務局 次回以降、口頭でお話いただいても、資料をお出しitidaiteもいいということなので、当日配付する資料があれば事前に事務局にいただければ、ご用意をさせていただきます。よろしくお願ひします。

○議長 先ほどの地域教育課で勉強に行くと言っていたのはいつでしたか。

○地域家庭連携係長 三鷹市に行くのは11月28日です。

○事務局 コミュニティ・スクールに関しては、いろいろ関わりがありそうなので、ぜひ情報提供をいただければと思います。

○議長 それでは、議事の2のその他に移ります。事務局から何かござりますか。

○事務局 次回の会議は11月28日の午後2時から、会場は同じくウィメンズパルの洋室Dで行いますので、よろしくお願ひいたします。

○議長 委員の皆様から何かござりますか。よろしいですか。

○議長 それでは、本日は閉会といたします。どうもありがとうございました。